

救急看護認定看護師のヒアリング結果

- (ある特定の) 医行為を実施したいとする理由
 - ・ 患者の苦痛を早期に緩和したい
(薬剤選択や検査などの予測・準備・調整はできるが、実施にあたっては医師の指示を待たなければならない)
 - ・ 習得した知識を活用した技術を患者に提供できないことでのジレンマを感じる
(緊急を要する場合や待機時間が長い患者からのクレーム対応時など)
- どのような医行為の実施が必要だと感じるか？
 - ・ 緊急度の高い医行為 (二次救命処置や薬剤投与など)
 - ・ 救急待機患者の早期アセスメントと各種検査の実施
 - ・ 軽症患者への薬剤の選択と使用の決定

特定看護師（仮称） 期待される効果

患者へのメリット

- 急病の回復促進・重症化の予防
- 入院を要しない患者の待機時間の短縮
- 生活に即した急病管理計画の提供

患者のQOL向上・患者の満足度が高まる

医療職へのメリット

- 医療スタッフ間の連携・補完の推進
- 看護師のキャリアアップのモデル

効率的なチーム医療の展開

養成調査試行事業 実施課程の教育内容

フィジカルアセスメントに関する科目

		単位数	時間数	担当教官
実施課程	救急診断学	1	15	医師2名
修了科目 (CN教育)	アセスメントとケアⅠ :フィジカルアセスメント	1	15	医師1名 看護師1名
	アセスメントとケアⅡ 臨床検査、画像診断、 疼痛・鎮静鎮痛 栄養評価と管理 創傷評価と管理 排尿障害	2	30	医師2名 看護師3名
	アセスメントとケアⅢ 小児・高齢者・妊産婦の フィジカルアセスメント	1	15	助産師1名 看護師2名

フィジカルアセスメントに関する科目のシラバス

救急診断学 （15時間1単位）

担当講師：医師2名

目 的：

救急患者の状況に対応した診察と診察技術を理解し、臨床推論によって診断につなげる見方・考え方を修得する。

目 標：

- 1.臨床推論や批判的思考を理解し、重点的・選択的フィジカルアセスメントの考え方を修得できる。
- 2.緊急度の高い急性病態の臨床推論と問題解決へのアプローチが理解できる。
- 3.重症度の高い急性病態の臨床推論と問題解決へのアプローチが理解できる。
- 4.救急プライマリケアの基本的手技が理解できる。

内容：

- 1.救急診断学概論
- 2.緊急性の高い急性病態
- 3.重症度の高い急性病態
- 4.救急プライマリケアの基本的手技

養成調査試行事業 実施課程の教育内容

臨床薬理学に関する科目

		単位数	時間数	担当教官
実施課程	臨床薬理学Ⅰ・Ⅱ	2	30	医師2名 薬剤師1名 弁護士1名

臨床薬理学に関する科目のシラバス

臨床薬理学Ⅰ・Ⅱ（30時間2単位）

担当講師：医師2名 薬剤師1名 弁護士1名

目 的：

医薬品を適正使用するために薬物動態学や副作用について理解する

目 標：

- 1)薬物の体内動態に基づく薬物相互作用について説明できる
- 2)薬物体内動態に対する年齢・性差・栄養の影響を説明できる
- 3)薬物の副作用について理解する
- 4)薬物の至適投与法について理解する
- 5)薬物投与に関する関連法令について理解する

内 容：

- 薬物の種類と構造
- 薬物の体内動態に基づく薬物相互作用
- 薬物の体内動態への内的要因による変化
- 薬物の有害反応
- 薬物の至適投与法
- 緊急薬品の至適投与量と方法および副作用
- 救急外来で処方される主な薬品の至適投与量、方法および副作用

養成調査試行事業 実施課程の教育内容

臨床生理学に関する科目

		単位数	時間数	担当教官
実施課程	病態学特論	1	15	医師1名
	救急病態生理学特論	1	15	医師1名
修了科目 (CN教育)	病態とケアⅠ 侵襲と生体反応	1	15	医師1名 看護師1名
	病態とケアⅡ 脳血管障害、急性呼吸不全、急性循環不全、多発外傷、熱傷	1	15	医師5名 看護師1名
	病態とケアⅢ 急性薬物中毒と精神科救急	1	15	医師1名 看護師1名

臨床生理学に関する科目のシラバス

病態学特論/救急病態生理学特論 (30時間2単位)

担当講師：医師2名

目 的：

特定医行為の実践に必要な疾病を病態的に理解し、患者に起こっている症状を臨床推論し、評価できる知識を修得する。

目 標：

1. 病態生理を通して、特定領域における頻度の高い疾病の理解ができる
2. 患者に起こっている症状を臨床推論し、診断評価につながる疾病の理解ができる。

内 容：

1. 病態生理と臨床症状
2. 心臓・血管の動きと心音の評価
3. 血液学
4. 水と電解質
5. がんの生物学

目 的：

生体制御機構とその破綻、侵襲と生体反応について理解する。

目 標：

1. 緊急度の高い急性病態の病態生理とその治療開始の判断ができる。
2. 重症急性病態の生体防御機構の破綻や侵襲による生体反応とその治療開始の判断ができる。
3. 救急プライマリケアで頻度の高い急性疾患の病態生理とその治療開始の判断ができる。

内 容：

1. 緊急度の高い急性病態と治療
2. 重症急性病態と治療
3. 救急プライマリケアで頻度の高い急性疾患

養成調査試行事業 実施課程の教育内容

その他の授業科目（演習実習以外）

		単位数	時間数	担当教官
実施課程	特定看護師（仮称） 概論	1	15	看護師4名
修了科目 (CN教育)	共通科目	7	105	看護師9名 その他2名

養成調査試行事業 実施課程の教育内容 演習科目

実施課程 1単位 30時間	救急診断学 目的：救急患者の治療の早期開始を確保するために、診断プロセスと治療を理解し実施につなげる 目標： 1.救急患者の診断プロセスが理解でき実践できる。 2.救急患者の診断プロセスに必要な臨床検査の実施の決定と評価ができる。 3.救急患者の診断プロセスに必要な放射線検査の実施の決定と評価ができる。	医師2名
実施課程 1単位 30時間	救命救急処置 目的：救急患者の救命または重症化を防ぐための緊急度の高い救命救急処置・技術を修得する。 目標：救命救急処置の実施の決定と評価ができる。	医師1名
修了科目 (CN教育) 11単位 240時間	救命技術の理論と実践：一次・二次救命処置	医師4名 看護師19名 他
	救急看護技術Ⅱ： 外傷初期看護	
	救急看護技術Ⅲ： 救急外来でのトリアージ 他	

養成調査試行事業 実施課程の教育内容

実習科目

実施課程 2単位 90時間	目的：救急患者の診断プロセスや主要徴候を理解し、救命と重症化を防ぐための早期介入と安全で的確な救命救急処置の実施につなげる能力を修得する。救急患者の治療の早期開始を確保するために、診断プロセスと治療を理解し実施につなげる。 目標： 1.救急患者の診断プロセスが理解でき実践できる。 2.救急患者の診断プロセスに必要な臨床検査の実施の決定と評価ができる。 3.救急患者の診断プロセスに必要な放射線検査の実施の決定と評価ができる。	医師2名
修了科目 (CN教育) 10単位 240時間	1.あらゆる状況下で、対象に応じた迅速で確実な救命技術・救急看護技術を実践できる。 2. 救急医療現場において、病態に応じた迅速かつ的確なトリアージを実践できる。 3. 救急医療現場において、患者の病態を理解し、実在する問題のみならず、予測される問題も把握・判断して臨機応変にケアを計画し、実践できる。 4. 危機状況にある患者・家族の心理的問題を的確に把握し、支援できる。	看護師2名 臨床指導者 (救急看護 認定看護師 各施設1名以上)

養成調査試行事業 実施課程

	単位数	時間数
救急分野特定看護師（仮称）養成調査 試行事業実施課程	10	240
救急看護認定看護師教育課程 （履修済み）	31	690
合計	41	930
本課程の受講者は5年以上の認定看護師としての 実践を有するもの		

本課程の指導体制

養成課程の指導体制

- 救急医を中心に講義・演習・実習の实地指導と評価
- 担当学科看護教員は講義・演習・実習の調整や総合的評価

特定看護師（仮称）養成 調査試行事業実行委員会

- 特定看護師（仮称）養成調査 試行事業実施課程の実施・評価に関する検討
 - 医師6名、看護教員等7名（外部教員2名含む）で構成
- ◆ 全体会議 分野別会議

教育の評価概要

講義

各教科目の
筆記試験等
の評価
(60%以上
で単位取
得)

演習

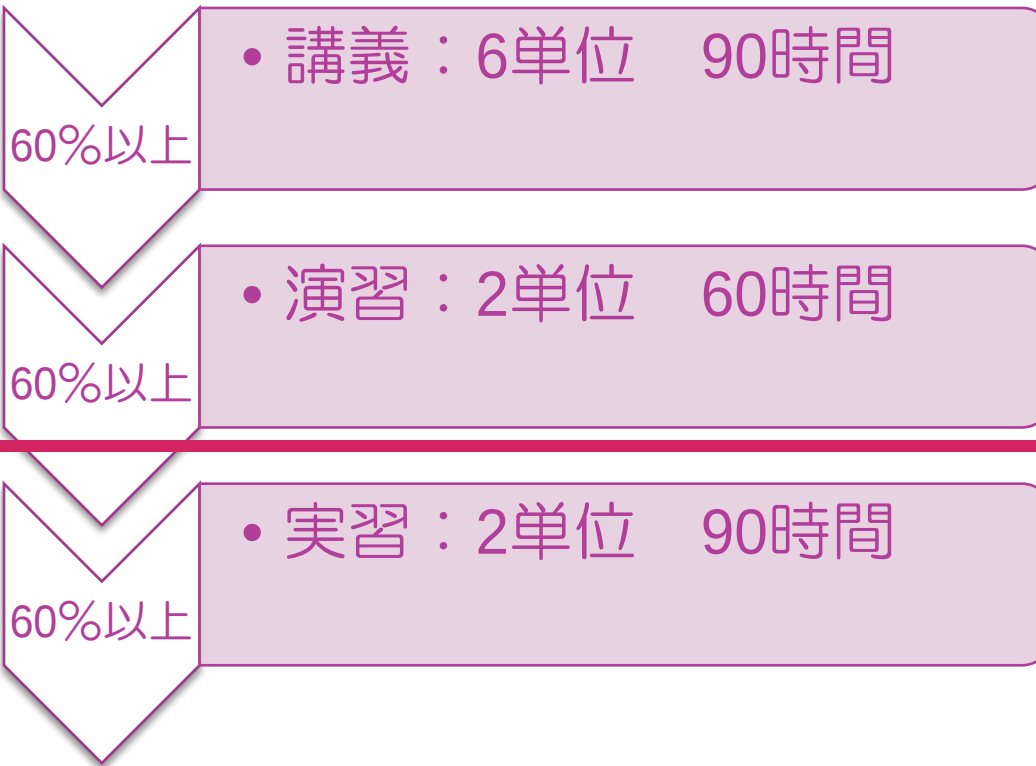
各科目の技術評価お
よびレポート評価
(60%以上で単位取
得)

講義・演習
のすべての
教科目単位
を取得した
者が実習へ

実習

必須医行為の技術評価
60%以上
課題ケースに関する実践
(実技及びレポート) 評価
60%以上

養成課程修了の評価



実習前に中間評価

特定看護師（仮称）養成調査試行事業実行委員会

外部委員を含めた会議で総合評価：80%以上を修了基準